

琉球大学学術リポジトリ

平成19年度（2007）障害児教育実践センター事業報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属障害児教育実践センター 公開日: 2008-05-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/5961

平成19年度（2007）障害児教育実践センター事業報告

1. 実践教育・臨床支援活動

本センターは発達支援を必要とする子どもたちへの教育に関する基礎的研究、臨床的研究、そして教育方法の開発等を行うとともに教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的としている。本年度4月より特別支援教育がスタートし、試行錯誤の取り組みが学校現場において行われている。特別支援教育に対する現場からの本センターへの期待はますます大きくなることを見据えて、昨年10月より現場での取り組みをサポートするとともに子どもたちへの支援を行いながら学生の実践教育をするトータル的な実践活動『実践トータル支援活動』をスタートさせた。本センターは本年度においても特別な支援を必要とする気がかりな子どもたちへの教育や関わりのある方を考える上での方法や資料を提供したり、実践事例検討会、公開セミナー、研修会などを開催してきた。『実践トータル支援活動』では、その骨格となる定期的活動を通して集団支援、個別支援、連携支援を行った。大学教員、学生、院生、現職教員等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの実践教育支援、及び実践研究を行った。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。障害児教育実践センターは発達支援における地域貢献及び特別支援教育に貢献する教員を育てることを最重要課題として位置づけて実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

(1) 個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。本年度、開催された8月4日の特別支援

セミナーにおいて試行したアンケート結果において当センターに対する期待の大きさが伺われた。学校現場では支援体制が整ってきたが、その支援が機能するかどうかは今後の特別支援教育の課題である。相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望と同時に、学校内部の取り組みを機能させるための支援についての期待があがった。学校現場は専門性の高い信頼できる相談機関を求めており特別支援教育のスタートによる子どもたちの発達支援や学校現場の戸惑いへの支援が課題となっている。

(2) 集団実践教育・臨床活動

研究指定校の沢岬小学校に在籍する子どもたちを中心に、相談室に訪れた子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもたちには実践トータル支援活動に参加してもらった。この活動は子どもたちを支援するとともに大学と小学校が連携することにより特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。2年目に入った今年度は、沢岬小学校との連携により個別支援担当スタッフとの事例検討会も行われた。子どもたちに対して細やかな支援が必要になるにつれて地域の支援機関とのネットワークの輪を広げていくことが課題となってきた。学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。センターの活動への参加により子どもたちと関わる視点を学び、子どもたちへの支援、現場の特別支援教育への還元を目的としている。

(3) 実践教育・臨床支援ケースの概要

平成19年1月から平成19年12月までの1年間のセッション月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計541回になった。本年度は、8月4日には京都発達研究会のメンバーによる発達相談会を開き、

表1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接(カウンセリング含む)セッション数	9	10	24	14	14	13	14	21	0	5	11	7	142
教員面接(スーパーヴィジョン含む)セッション数	2	3	13	13	16	13	14	14	0	14	13	14	129
子どもへの発達・教育学習・適応支援(心理療法含む)セッション数	7	7	4	5	4	4	2	2	0	0	4	4	43
成人面接(カウンセリングを含む)セッション数	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	1	0	7
実践トータル支援プログラム(個別支援)セッション数	18	18	9	18	18	27	18	9	9	18	18	18	198
実践トータル支援プログラム(集団適応支援)セッション数	2	2	1	2	2	3	2	1	1	2	2	2	22
セッション総数	38	40	51	54	56	62	50	47	10	39	49	45	541

表2 臨床活動 診断別内訳

診断名	事例数
アスペルガー障害	18
学習障害	3
注意欠陥多動性障害 (ADHD)	5
知的障害	11
広汎性発達障害 (自閉症)	7
聴覚障害	1
情緒障害 (虐待)	3
ダウン症候群	2
計	50

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
宜野湾市	17
那覇市	11
浦添市	9
沖縄市	4
糸満市	3
南風原町	1
中城村	1
豊見城市	1
南城市	1
与那原町	1
嘉手納町	1
総計	50

11人の相談者が参加された。昨年度より相談件数が増えたことは相談依頼を積極的に受けて地域に貢献していくセンターの体制が整備されてきていることが大きい。今後はセンターのプレイルームを整備し、さらに地域に貢献していく方針である。

も多いのがアスペルガー障害、次に知的障害、広汎性発達障害である。アスペルガー障害を有する子どもたちの相談が約36パーセントを占めていることが分かる。知的障害、広汎性発達障害(自閉症)の相談の割合も多かった。

(4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳
表2には診断別内訳を示した。相談ケースで最

(5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内
 訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。宜野湾市、那覇市、浦添市など大学周辺の市町村からの相談が約74パーセントを占めた。今後は、那覇市教育委員会や島尻教育事務所からの支援依頼もあり相談も増える可能性がある。昨年と比較すると那覇市からの相談依頼が増えた。

2. 社会教育活動

昨年度の10月より特別な支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援プログラムをスタートさせた。専門機関としての大学の障害児教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援するこの活動のねらいが高く評価されて、NHKが取材に訪れた。その活動の様子は2月9日(金)のNHK総合テレビ、19時30分～55分の『沖繩潮流』で放映され、視聴者から多くの評価を得た。

(1) 実践トータル支援プログラム

保護者や学校から軽度発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援活動をスタートさせた。以下のような目的で活動している。

- ① 特別な支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
- ② 支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員への実践教育支援
- ③ 学校との連携支援
- ④ 支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法など、実践に役立つ支援に関する研究

支援活動は、学部学生、大学院生、保育士、小学校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者の支援として子育て支援講座を行っている。以下のような支援課題と目的で活動をしている。

1) 個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

2) 集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさやメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切にする」子育て支援を目的にしている。子育て支援では以下の内容の講座を開いた。

子育て支援講座

- | | | |
|------|--------|----------------------------|
| 第1回 | 5月9日 | アスペルガー障害、高機能自閉症の特徴 |
| 第2回 | 5月23日 | コミュニケーションの特徴～一方的に話してしまう |
| 第3回 | 6月13日 | 特別支援教育について |
| 第4回 | 6月27日 | 文部科学省による特別支援教育の推進について |
| 第5回 | 7月11日 | コミュニケーションの特徴～人の気持ちを読み取れない |
| 第6回 | 7月25日 | コミュニケーションの特徴～慣用語や冗談を理解できない |
| 第7回 | 9月12日 | YMCA サタデーズクラブの発達障害児グループ活動 |
| 第8回 | 10月17日 | 実践トータル支援活動の目的について |
| 第9回 | 10月31日 | LDの気づきについて |
| 第10回 | 11月14日 | ADHDの症状について |
| 第11回 | 11月28日 | 支援の実践理論について |
| 第12回 | 12月5日 | 集団支援の活動計画の手だてについて |

水曜日、月2回のペースで琉球大学50周年記念館を会場として以下のような多くの参加により支援活動を行った。ここでは2007年1月から12月までの第6回から第27回までの活動を示す。また、その活動の内容を表4に、支援活動参加者数を表5に示す。

表4 集団支援活動の内容

回	活動日	活動内容
6	2007年1月17日	・色々転がせボーリング大会
7	2007年1月31日	・行方不明の子どもを探せ
8	2007年2月14日	・ふうせん運びリレー ・ミニお別れ会
9	2007年2月28日	・チーム対抗新聞ボール投げ
10	2007年3月14日	・美術教室企画1 コップ作り
11	2007年4月11日	・名札作り ・輪くぐり
12	2007年4月25日	・バスケットボール遊び
13	2007年5月9日	・グループ分けゲーム ・フルーツバスケット
14	2007年5月23日	・ネコとネズミ(Aグループ)・持ち物長々ゲーム(Bグループ)
15	2007年6月6日	・美術教室企画2 シーサー作り
16	2007年6月13日	・棒送り
17	2007年6月27日	・フリスビーゲーム
18	2007年7月11日	・ボーリング大会
19	2007年7月25日	・だるまさんがころんだ
20	2007年8月2日	・はないちもんめ
21	2007年9月12日	・つなひき
22	2007年10月17日	・美術教室企画3 落書きならぬ落消し
23	2007年10月31日	・フリスビーを作って遊ぼう
24	2007年11月14日	・ペアと一緒にペアを見つけよう☆神経衰弱
25	2007年11月28日	・折り紙で遊ぶ～紙ヒコーキを飛ばそう～
26	2007年12月5日	・はねトビ!なわトビ!
27	2007年12月19日	・はないちもんめ&ツイスター

表5 支援活動参加者数

活動日	参加者数						合計
	子ども	親	学生	教員	センター スタッフ		
第6回 1月17日	6	6	25	8	2	45	
第7回 1月31日	8	7	23	9	2	49	
第8回 2月14日	7	8	25	8	2	50	
第9回 2月28日	7	7	24	8	2	48	
第10回 3月14日	7	8	27	8	2	52	
第11回 4月11日	8	8	15	8	2	39	
第12回 4月25日	12	10	22	10	2	54	
第13回 5月9日	12	10	22	9	1	54	
第14回 5月23日	12	10	22	9	1	54	
第15回 6月6日	12	11	32	10	2	67	
第16回 6月13日	12	11	22	10	1	51	

活動日	参加者数						合計
	子ども	親	学生	教員	センター スタッフ		
第17回 6月27日	12	11	23	11	1	58	
第18回 7月11日	11	10	25	13	1	60	
第19回 7月25日	12	10	22	14	1	59	
第20回 8月2日	11	10	17	15	1	54	
第21回 9月12日	11	10	10	9	1	41	
第22回 10月17日	12	12	16	7	2	49	
第23回 10月31日	12	11	17	7	1	48	
第24回 11月14日	11	10	16	8	1	46	
第25回 11月28日	13	11	15	10	1	50	
第26回 12月5日	11	10	15	8	1	45	
第27回 12月19日	11	10	16	5	1	43	

(2) 公開セミナーと実践トータル支援プログラムの研究成果報告

地域社会への貢献を目的に公開セミナーおよびセンター活動の実践研究成果の報告を行った。セミナーは国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会が後援となった。今回は浜田寿美男氏(奈良女子大学)に基調講演をお願いした(添付資料参照)。研究成果の報告に関しては関西、中部、関東圏から来られた京都発達研究会のメンバーに活動を評価してもらい、多くの意見をもらうことができ、会場の参加者をはじめ学生メンバーや支援スタッフにも実りのあるものになった。まず、特別支援の実践研究に関しては集団支援、個別支援、連携支援などの各支援部門の担当者から報告および連携協力学校のコーディネーターからの報告を行った。さらに京都発達研究会の後藤真吾氏から滋賀県立甲良養護学校での特別支援教育の取り組みを報告してもらった。学校および教育関係機関を含めた各領域の専門機関からの参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。本センターにおいてもアンケートによる地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた実りある会となった。現職教員、保育士、保護者のみならず、県教育委員会、市町村教育委員会から多くの特別支援教育に熱心な関係者が参加したことによる当センターの取り組みの関心の高さを痛感した。また、教育の領域を超えて医療や福祉の多くの専門家が参加し、大きな関心を得ることができたことは今後のネットワーク作りへの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。この公開セミナーは新聞報道にも取り上げられ、多くの評価を得た。

公開特別支援セミナー 後援 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会『特別な支援を必要とする子どもたちの発達の理解と実践トータル支援活動』

・実践トータル支援活動の研究報告

司会：浦崎 武：障害児教育実践センター専任
集団支援 実践報告研究報告者：崎濱朋子：沖縄市立美原小学校：武田喜乃恵：琉球大学教育学研究科大学院

個別支援 実践報告1 研究報告者

：瀬底正栄

：那覇市立松島小学校、琉球大学教育学研究科大学院

：志良堂弥：琉球大学教育学部

実践報告2 研究報告者

：城間園子：沖縄県立島尻養護学校

琉球大学教育学研究科大学院

：清水佑子：琉球大学教育学研究科大学院

連携支援 研究報告者

：真喜屋祥子：沖縄県立美咲養護学校

：野里 宏美：浦添市立仲西中学校

：相澤 眞理：浦添市立沢岨小学校

発達研究会代表報告研究報告者：後藤真吾

：滋賀県立甲良養護学校

・講演

講師と演題：浜田寿美男(奈良女子大学)

『特別な支援を必要とする子どもたちの発達と生きるかたち』

日時：8月4日 土曜日 13時～18時

会場：琉球大学法文学部 新講義棟215教室

参加者：約300人

(3) 離島支援活動

八重山支援においては石垣市で本年度第1回巡回教育相談会を8月8日、第2回巡回教育相談会を12月11日、12日に開いた。講演会を8月9日に開いた。昨年度同様、県の予算の削減により研修の機会が制限されている与那国島にも支援をして欲しいとの要望を引き受けて、2月19日に与那国町立小学校の研修会、2月20日に与那国町立小中学校訪問相談会を開いた。地元の新聞報道にも八重山の周辺離島への継続的な支援の必要性が取り上げられた。

① 相談活動

八重山相談会

8月8日 会場：八重山教育事務所
相談者：11人

12月11日 会場：八重山教育事務所
相談者：5人

12日 会場：八重山教育事務所
相談者：5人

2月20日(2008年)

会場：与那国町立小・中学校

② 教育研修会

八重山講演会

8月9日 会 場：八重山教育事務所

参加者：60人

講 師：浦崎 武

与那国研修会

2月19日（2008年）

会 場：与那国町立小学校

③ 学校訪問

与那国町立小・中学校訪問

2月20日（2008）

(4) 学校、保育園訪問支援活動

本年度は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園の訪問支援を行った。保育園を含め9学校に訪問し相談を受けた。そのうち5校は定期継続の訪問支援となった。

(5) 他機関との連携支援

① 就学相談会 県立総合教育センターへの協力

6月8日～7月21日

県立総合教育センターが開いている就学相談会に障害児教育専修スタッフのサポートを得て、相談員として連携協力を行った。

② 教育研究支援 浦添市教育委員会指定研究校

沢岨小学校との連携支援による研究 校内研修

日 時：6月27日、15時30分

参加者：40名（教員）

③ 連携支援 付属小学校との連携支援

校内事例検討会

第1回 日 時：4月5日、13時00分

参加者：5名（副校長、担任、養護教諭、関連の教員）

第2回 日 時：5月17日、16時30分

参加者：8名（校長、副校長、担任、学年教師、美術担当、音楽担当、養護教諭）

3. 学生、院生教育活動

(1) 実践トータル支援プログラム

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や

支援のあり方を学び、特別支援教育に貢献できる学生を育成することを目的として実践教育を行っている。実践トータル支援活動のなかで「障害児心理検査法」を受講している学生は心理検査法および子どもたちとの関わりから実態をつかみアセスメントができる実践力を学んでいる。「障害児臨床心理学」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害児支援特論」を受講すると、担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる学生を育てる教育を行っている。8月3日には山上雅子氏（京都女子大学）により実践トータル支援活動を見学してもらい、活動に参加している学部学生、大学院生に向けて講演およびスーパーヴァイズをしてもらった。

・教育講演会

講 師：山上雅子（京都女子大学）

タイトル：『実践教育・臨床支援のポイント～実践トータル支援活動を見学して～』

日 時：8月3日19時30分

参加者：20名（学部学生、大学院生、現職教員）

(2) センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、障害児教育専攻の授業を担当している。平成19年度は障害児教育専攻の以下の授業を担当した。

2年 「情緒障害児教育」

3年 「障害児心理検査法」

3年 「障害児臨床心理学」

大学院 「特別支援教育特論B」

大学院 「障害児臨床心理学特論」

大学院 「軽度発達障害者支援特論」

(3) センター専任教員の卒業論文、修士論文の指導

卒業論文について

平成19年度においては、1名の障害児教育専修の学生の卒論指導を行った。2名の3年次ゼミ学生を指導した。3名はセンターの集団臨床活動にも参加している。この1名の卒業論文のタイトルは以下になっている。

- ・対人関係に問題をもつ軽度発達障害児への適応支援—通級指導教室と通常の学級における関わりを通して—

修士論文について

修士論文に関しては、2名の大学院1年生（障害児教育専修）の指導を行った。この2名はセンターの個別支援活動および集団臨床活動にも参加している。論文の題目は以下になっている。

- ・小学校における特別支援教育システムの構築—援助チームの形成と児童への支援を通して—
- ・軽度発達障害児への関係形成の支援

4. 研究教育活動

(1) 実践事例研究会

昨年10月から月1回、水曜日に琉球大学50周年記念館で院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者が参加して実践研究を行っている。第9回のアスペルガー症候群と診断された成人男性の過去の報告では、新聞記者が実践事例研究会に参加し記事を書いた。第4回は特例会として麻生武氏（奈良女子大学）、山上雅子氏（京都女子大学）がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男氏（奈良女子大学）、麻生武氏（奈良女子大学）、山上雅子氏（京都女子大学）の他、京都の発達研究会との共同発表会が開かれた。関西地区以外にも関東地区、中部地区からも参加者が来られた。本年度の実践事例研究会における1月から12月までの事例の発表者、タイトル、参加者は以下になっている。

- ・第4回 特例実践事例研究会
発表者：ゆうわ保育園 保育士
タイトル：『障害のある幼児の育ちと3年間の関わり』

日時：1月26日、18時30分

参加者：44名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、学生、院生など）

- ・第5回 公開実践事例研究会
発表者：仲西中学校 教師
タイトル：『アスペルガー障害のある生徒に対する支援』

日時：1月27日 15時50分

参加者：200名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、教育・医療・福祉関係者、保護者など）

- ・第6回 実践事例研究会
発表者：美咲養護学校 高等部
タイトル：『TEACCHを用いた支援の実践について』

日時：2月21日 18時30分

参加者：21名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

- ・第7回 実践事例研究会（特別支援教育実践部会）

発表者：沖縄ろう学校 小学部

タイトル：『わかり合いたくて—ろう重複児童の学習実践から—』

日時：3月30日 18時30分

参加者：25名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

- ・第8回 実践事例研究会
発表者：アスペルガー症候群と診断された成人男性
タイトル：『アスペルガー症候群について—幼少期から児童期—』

日時：5月16日 18時30分

参加者：30名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

- ・第9回 実践事例研究会
発表者：アスペルガー症候群と診断された成人男性
タイトル：『アスペルガー症候群について—

中学校前編一』

日時：6月20日 18時30分

参加者：33名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

・第10回 実践事例研究会

発表者：アスペルガー症候群と診断された成人男性

タイトル：『アスペルガー症候群について—中学校後編—』

日時：7月18日

参加者：32名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

・第11回 特例実践事例研究会

発表者：筑波大学付属久里浜特別支援学校
タイトル：『自分ひとりのできるようになること—Mさんとの関わりを通じて—』

発表者：美原小学校 教師

タイトル：『校内の連携—8匹のひよこ—』

日時：8月3日

参加者：43名（特別支援学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

・第12回 実践事例研究会

発表者：沖縄ろう学校 小学部

タイトル：『聴覚障害児が筆談をした時の心理—筆談の必要性を再認識するまでの心理的变化—』

日時：11月21日

参加者：14名（養護学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）

(2) 実践研究公開報告

8月4日のセミナーにおいて実践トータル支援活動の成果について実践事例研究の報告を行った。実践トータル支援アプローチについて浜田寿美男氏（奈良女子大学）、麻生武氏（奈良女子大学）、山上雅子氏（京都女子大学）および、京都発達研究会のメンバーから貴重なコメントをもらった。

(3) 実践研究論文の作成

8月4日に実践研究公開の発表を行った事例を中心に実践トータル支援活動の実践研究の成果を以下の論文にまとめた。

- ・2008年3月（浦崎武、武田喜乃恵、崎濱朋子、木下秀美）発達障害のある小学生の子どもたちへの学生支援者による集団支援—他者との関わりを中心に— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号
- ・2008年3月（瀬底正栄、浦崎武 他）発達障害のある小学生男子の個別支援に関する事例研究—重要な他者との関係構築の支援から— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号
- ・2008年3月（城間園子、浦崎武他）発達障害児への関係発達の支援アプローチ—子ども・母親の情動に焦点をあてた支援を通して— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号
- ・2008年3月（相澤眞理、浦崎武）実践トータル支援活動との連携による児童の特性に応じた支援—行動・感情のコントロールが苦手な児童への支援— 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号

(4) 発達研究会

毎月1回、大学院生、現職教員を対象に発達研究会を開いている。実践教育を行う上で基礎となる発達理論を学ぶ会を開いている。

(5) 定期刊行物の発行

定期刊行物として「障害児教育実践センター紀要」を発行している。2008年3月には第9号を発行した。

(6) 研究資料の提供

- ・セミナーにおいて本センターの活動に関することや障害をもった子どもたちや気がかりな子どもたちと関わる視点を資料としてまとめて提供した。
- ・紀要においてセミナーにおける浜田寿美男氏の基調講演の内容をまとめて記載した（資料参照）。

(7) 科学研究費の交付

センターにおける活動の基礎となる軽度発達障

害児との関わり方の在り方について、センター専任教員浦崎は実践事例研究に関する科学研究費の交付を受け、次の名称で実践研究を行っている。

- ・軽度発達障害者への重要な他者との関係の形成による支援と特別支援を行う機関との連携（若手研究B 課題番号17730410）

2006年～2008年にかけて科学研究費の交付により実践研究課題に基づいて次の名称により論文をまとめた。

- ・2006年3月、広汎性発達障害者の身体の外枠作りと内枠作りによる心理療法－他者との関係性の成立と発達の支援－ 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要第7号 1-14
- ・2007年3月 高機能広汎性発達障害をもつある小学生男子への重要な他者との関係形成による適応支援 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第8号 1-18.
- ・2007年4月（浦崎武、武田喜乃恵）「死にたい」と訴えるADHDと診断された男の子への関係形成による支援 発達110,89-96.
- ・2007年11月（浦崎武、武田喜乃恵）軽度発達障害児に対する関係形成による発達支援－重要な他者との関係形成と自己肯定感 発達・療育研究 第23号 39-55.
- ・2008年3月 軽度発達障害者への重要な他者との関係の形成による支援と特別支援を行う機関との連携 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号
- ・2008年3月（浦崎武、武田喜乃恵、崎濱朋子、木下秀美）発達障害のある小学生の子どもたちへの学生支援者による集団支援－他者との関わりを中心に－ 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要 第9号

5. その他の活動

- (1) 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会について
障害児教育関連施設センター連絡協議会が神戸

国際会議場で開かれた。

9月24日 月曜日 神戸国際会議場 11時35分

- ・本年度のセンター連絡協議会と琉球大学教育学部附属障害児教育実践センターによる共催セミナーを8月に開催したことを報告した。

(2) その他の社会的活動

センター専任 浦崎武

- ・県立総合教育センター カウンセリング研修会 研修日 7月6日、13日、20日、27日
- ・宜野湾市保育園巡回相談員
- ・平成19年度 特別支援教育体制推進事業 島尻地区特別支援専門家チーム巡回支援 開催日 7月12日、10月16日
- ・特殊教育相談等支援体制整備事業に係わる運営協議会 美咲養護学校 会長 開催日 7月30日、3月10日（2008）
- ・平成19年度 那覇市教育委員会学習障害児等専門家チーム巡回支援 開催日 11月12日
- ・沖縄県難聴・言語障害教育研究会 研究発表会 講演・指導助言
『障害児のこことばと自我の発達と社会性について』
日時：12月6日 9時30分～16時30分
会場：中頭教育事務所
参加者：60人
- ・島尻地区特別支援連携協議会 開催日：1月10日（2008）
- ・名桜大学主催 教職員・学生対象 講演会
タイトル：『青年期の発達障害の特徴と支援のあり方』
日時：1月16日（2008）10時～12時
会場：名桜大学
参加者：30人